



北斗句会

令和四年三月定例会（二日）

兼題 「風」「火」

五十音順

特は特選 石田きよし選

一気飲みこの味はひぞ春の水

大崎石州

特 風光る砕くる磯の波頭

大森康正

病床にお粥の湯気や春霞

竹内雲泉

特 妻に客春の香襟に秘そめくる

田中資凡

小走りの小さき会釈や寒返る

長池豆陽

特 風光る老舗そば屋の水車小屋

藤田紀潮

貴重なる蛤は焼け煮るは馬鹿

宮下ひかる

春炬燵仕舞ふて大の字となりぬ

森田光彦

日溜りの葉艶まぶしき椿かな

山縣秀雄

塗りたくる膝痛葉春寒し

吉岡誠山



落椿なほ地に咲ける構へかな

石田きよし